

vRealize Automation 7.1 リリース ノート

最終更新日 2017年8月21日

更新日: 2017 年 8 月 21 日

vRealize Automation | 2016 年 8 月 23 日 | ビルド 4270058

リリース ノートを定期的に確認して、最新の追加情報や更新情報を入手してください。

リリース ノートの概要

本リリース ノートでは、次のトピックについて説明します。

- [新機能](#)
- [システム要件](#)
- [インストール](#)
- [アップグレードの準備](#)
- [解決した問題](#)
- [既知の問題](#)
- [以前の既知の問題](#)

新機能

vRealize Automation 7.1 リリースには解決された問題、および次の変更が含まれています。

- サイレント インストーラを使用するインストール プロセスの効率化を実現しました。
- エージェントおよび必要なコマンド ライン インターフェイスが提供されました。
- 移行ツールを使用して、ソースの vRealize Automation 6.2.x 環境を保持しながら、新しい vRealize Automation 7.1 環境にデータを移動できるようになりました。
- IPAM 統合フレームワークが提供され、主要な IP アドレス管理システムの IP アドレス自動割り当てを使用して、マシンやアプリケーションをデプロイできるようになりました。Infoblox と連携することも可能です。
- Active Directory ポリシーのサポートが組み込まれました。
- カスタムのプロパティ ディクショナリの制御によって、プロパティ定義および vRealize Orchestrator アクションを向上させることができます。
- イベント ブローカ ワークフロー サブスクリプションにより、ライフサイクル イベントを再構成できるようになりました。
- vSphere プロビジョニング オプションが追加され、データ コレクションが強化されました。

- vRealize Automation が展開するアプリケーション環境の水平方向のスケール インやスケールアウトが手動で実行できます。これには、依存コンポーネントの自動更新が含まれます。
- [ホーム] 画面に、カスタマイズ可能なメッセージボード ポートレットが提供されました。
- [アイテム] ページに情報とフィルタ オプションが追加されました。
- PostgreSQL 外部データベースがサポートされなくなりました。

システム要件

サポート対象のホスト オペレーティング システム、データベース、および Web サーバについては、『[vRealize Automation Support Matrix](#)』を参照してください。

インストール

前提条件とインストール方法については、『[vRealize Automation のインストール](#)』を参照してください。

アップグレードの準備

新しい vRealize Automation では、以前のバージョンからのアップグレードや移行に対応し、さまざまな機能拡張を提供します。アップグレード プロセスを開始する前に、[vRealize Automation アップグレード アシスタンス](#)の Web ページで、推奨事項やガイドをご確認ください。

解決した問題

- vRealize Automation 7.0 ではカスタム プロパティ名の**大文字**と**小文字**が区別される
- Amazon Web Services 仮想マシンをプロビジョニングした後、仮想マシンの IP アドレスがカタログ API で使用できなくなる
- レプリカ サーバを vRealize Automation 7.0 から 7.0.1 にアップグレードする場合、レプリカサーバはマスター サーバと同期している必要がある。レプリカ サーバが同期していないと、レプリカの PostgreSQL サービスは起動できず、アップグレードに失敗する。
- ネットワーク カスタム プロパティがブループリント レベルで指定されていると、Edge による仮想マシンの割り当てに失敗する
- カタログからマシンを申請するときにディスク サイズを変更できない
- 前提条件チェッカーが、インストール前に、Distributed Transaction Coordinator の要件を適切に確認するようになった

- 管理者パスワードで二重引用符を使用できない
- VMware vRealize Automation 7.x に、ポンド記号 (#) を含む Active Directory グループを追加すると失敗する
- ログイン ページのドロップダウン メニューでドメインを変更すると、「アクセスが拒否されました」というメッセージが表示される
- 前提条件チェッカーによるインターネット インフォメーション サービス (IIS) サーバの Windows 認証の検証が、IIS コンポーネントのインストール後に Windows 認証設定が変更されていないデフォルトの Web サイトに対してのみ機能する
- vRealize Automation アプライアンスの管理インターフェイスでホスト名と証明書の設定を保存するときに、エラー メッセージが表示される
- vRealize Automation アプライアンスを初めてデプロイするときに root パスワードの 2 つの有効な文字の間にコンマ (,)、バックスラッシュ (\) またはスペースを入力すると、ウィザードを使用して高可用性環境を設定するときにセットアップ プロセスが失敗する
- グループ数の多いテナントを削除すると、プロセスがタイムアウトすることがある
- ソフトウェア コンポーネントのプロパティが必須であるにもかかわらず、空になっている

既知の問題

インストール

- セキュリティ パスフレーズに二重引用符を含めることができない
セキュリティ パスフレーズに二重引用符 (") が含まれていると、インストールが失敗します。セキュリティ パスフレーズは、インストール ウィザードの [IaaS ホスト] ページで指定します。
回避策: なし
- 新規インストールの後、マスター アプライアンス ノードにレプリカ アプライアンス ノードのステータスが表示されない
回避策: 次の手順を実行します。
 1. マスター アプライアンス ノードの vRealize Appliance 管理コンソールを開きます。
 2. [vRA の設定] > [データベース] を選択します。
 3. レプリカ ノードの名前の横の [リセット] をクリックします。
- vRealize Automation 7.1 が Microsoft SQL 2016 の互換性レベル 130 をサポートしていない
vRealize Automation ウィザードのインストールで作成される Microsoft SQL 2016 データベースの互換性レベルは 100 です。手動で SQL 2016 データベースを作成する場合も、互換性レ

ベルを 100 にする必要があります。関連情報については、Microsoft の記事「[Prerequisites, Restrictions, and Recommendations for Always On Availability Groups](#)」を参照してください。

- **セキュリティ アップデートが前提条件チェッカーに影響する**

このリリースでは、Microsoft セキュリティ アップデート 3098779 および 3097997 を適用している場合、インストール ウィザードの前提条件チェッカーの検証に失敗します。ただし、前提条件チェッカーはセキュリティ アップデートを検出し、**[修正]** オプションを使用して削除するよう求めるプロンプトを表示します。削除後、前提条件チェッカーを通常どおり実行できます。

回避策：前提条件チェッカーが機能するよう、インストール ウィザードにセキュリティ アップデートの削除を許可します。アップデートは手動で削除することもできます。ウィザードが終了したら、アップデート [3098779](#) および [3097997](#) を手動で再インストールできます。

- **セキュリティ アップデートがサイレント インストールに影響する**

このリリースでは、Microsoft セキュリティ アップデート 3098779 および 3097997 を適用している場合、新しいサイレント インストール機能が適切に動作しません。これらのアップデートは、インストール ウィザードの前提条件チェッカーに影響するアップデートと同じものです。

回避策：サイレント インストールを実行する前に、IaaS Windows Server からアップデートを手動で削除する必要があります。サイレント インストールの終了後、アップデート [3098779](#) および [3097997](#) を手動で再インストールできます。

アップグレード

- **vRealize Automation の 6.2.x から 7.1 へのアップグレード前に定義された XaaS リソースをプロビジョニングできない**

アップグレード前に同一の vRealize Orchestrator タイプで定義された複数のカスタム リソースが vRealize Automation 7.1 へのアップグレード後に失敗します。

回避策：データベースに、2つのカスタム リソースがある場合は、すべての参照がリソースのいずれかのみをポイントするように更新し、もう一方のリソースは削除します。vCAC サーバを再起動します。すべての XaaS オブジェクトが開始時に正常にアップグレードされます。

- **移行により、vRealize Orchestrator Plug-in バージョンの不一致が発生する**

移行後、プラグイン バージョンの不一致に対応するために、内部 VMware vRealize Orchestrator Plug-in を再インストールする必要があります。

回避策：移行が正常に完了した後、次の手順を実行します。

1. vRealize Orchestrator 構成インターフェイスにログインします。 [vRealize Orchestrator 構成インターフェイスにログインする](#) を参照してください。
2. vRealize Orchestrator コントロール センターのホーム画面で、**[起動オプション]** をクリックします。
3. **停止** をクリックします。
4. コントロール センターのホーム画面で、**トラブルシューティング** をクリックします。
5. **プラグインを強制的に再インストール** をクリックします。
6. コントロール センターのホーム画面で、**起動オプション** をクリックします。
7. **開始** をクリックします。

- **vRealize Automation 7.1 のインストール後、または vRealize Automation 7.0 から 7.1 へのアップデート後、ログイン ページで選択したカスタム背景画像が表示されない**

vRealize Automation 7.0 に存在するカスタマイズされたブランディングの画像が、vRealize Automation 7.1 へのアップデート後、テナント ログイン ページで表示されません。vRealize Automation 7.1 の新しいインストール環境で、指定したカスタマイズ済みのブランディング画像が表示されません。

回避策: [ナレッジベースの記事 KB2147171](#) を参照してください。

- **ネイティブ Active Directory の移行がエラーで失敗する**

現在、SSO 移行ユーティリティは、vRealize Automation 移行プロセスにおいて、自動化されたネイティブ Active Directory を転送しません。

回避策: 手動でネイティブ Active Directory を構成して起動する場合、Active Directory を移行することができます。これは、vRealize Automation 移行プロセスが完了してから実行する必要があります。

- **PostgreSQL サーバ インスタンス名に ASCII 以外の文字が含まれる場合、vRealize Automation 6.2.4 から 7.1 への IaaS ノードの移行に失敗する**

回避策: vRealize Automation 6.2.4 環境を 7.1 に移行するには、IaaS データベースをバックアップする vRealize Automation 環境の移行手順を使用します。

- **vRealize Automation 6.2.3 以前の高可用性環境から 7.1 にアップグレードすると、IaaS 管理エージェント構成が破損する**

vRealize Automation 6.2.2 から 7.1 へのアップグレード後、IaaS 管理エージェントが起動できません。エラー メッセージにより、管理エージェント構成ファイルにノード ID が見つからないと報告されます。

回避策: [ナレッジベースの記事 KB2146550](#) を参照してください。

- **アップグレード済みの導入環境でスケール インまたはスケール アウト アクションが失敗する**

バルクインポートされた導入環境、または vRealize Automation 6.x からアップグレードされた導入環境では、スケール インまたはスケール アウト アクションはサポートされません。

回避策: 回避策はありません。アップグレード後にブループリントから実装された新しい展開では、スケール インまたはスケール アウト アクションがサポートされます。

- **vRealize Automation アプライアンスの管理コンソールにログインすると、エラー メッセージが表示される**

適切な認証情報でログインした後に、「サーバ応答が無効です。もう一度やり直してください」という内容のエラー メッセージが表示されます。この原因はブラウザのキャッシュの問題によるものです。

回避策: ログアウトし、ブラウザのキャッシュをクリアして、再度ログインします。

ドキュメントおよびヘルプ

次のアイテムまたは修正は、このリリースのドキュメントに掲載されていません。

- **新規 NSX の統合を使用して vSphere エンドポイントを作成するときに必要な vRealize Orchestrator エンドポイントの作成に関する情報がドキュメントに記載されていない**

「ネットワークおよびセキュリティ統合機能を持つ vSphere エンドポイントの作成」に、必要な vRealize Orchestrator エンドポイントの作成に関する情報を含む「vRealize Orchestrator エンドポイント」へのリンクがありません。

回避策: NSX の統合を使用して vSphere エンドポイントを作成するには、次の手順を実行します。

1. 「[ネットワークおよびセキュリティ統合機能を持つ vSphere エンドポイントの作成](#)」の手順を実行して、vSphere エンドポイントを作成します。
2. 「[vRealize Orchestrator エンドポイントの作成](#)」の手順を実行して vRealize Orchestrator エンドポイントを作成します。

- **新規ドキュメントのトピック「[Prepare a Windows Reference Machine to Support Software](#)」に誤りがある**

このトピックに、いくつかの修正を行いました。修正については、7.3 バージョンのトピック「[Prepare a Windows Reference Machine to Support Software](#)」を参照してください。

- **ドキュメントのトピック「[Log in to the vRealize Orchestrator Client](#)」に誤りがある**

「[Log in to the vRealize Orchestrator Client](#)」トピックの手順 1 に誤りがあります。以下が正しい手順になります。

1. Connect to the vRealize Automation URL in a Web browser.

- ドキュメント トピック「[Log in to the vRealize Orchestrator Configuration Interface](#)」に誤りがある

「[Log in to the vRealize Orchestrator Configuration Interface](#)」トピックの手順 4 と手順 5 に誤りがあります。両手順を以下の手順 1 つに置き換える必要があります。

4. Log in to the vRealize Orchestrator Control Center with the the root password that you entered when you deployed your vRealize Automation appliance.

- **vRealize Automation が SCVMM のプライベート クラウドの構成を使用する展開環境をサポートしていない**

vRealize Automation では現在、SCVMM プライベート クラウドに対してデータ収集、割り当て、プロビジョニングを行うことはできません。

- **vRealize Automation のライセンスをダウングレードできない**

vRealize Automation 管理インターフェイスの [ライセンス] ページを使用して、下位エディションのライセンス キーを送信すると、次のメッセージが表示されます。たとえば、Enterprise のライセンスで使用を開始したにもかかわらず、Advanced のライセンスを入力した場合です。

既存のライセンス エディションをダウングレードすることができない

この vRealize Automation リリースでは、ライセンスのダウングレードをサポートしていません。同等以上のエディションのライセンスのみを追加できます。下位のエディションに変更するには、vRealize Automation を再インストールする必要があります。

- **Vrm.DataCenter.Location のカスタム プロパティ定義がない**

このカスタム プロパティの説明については、vRealize Automation 7.2 のドキュメントを参照してください。

- **vCloud Air エンドポイントでは組織と仮想データセンターの名前が一致している必要がある**

vCloud Air エンドポイントの場合、vCloud Air サブスクリプション インスタンスの組織名と仮想データセンター名は同一である必要があります。

以前の既知の問題

[表示/非表示](#)